

翻訳生産性向上のための翻訳支援ツール活用法

●プロフィール

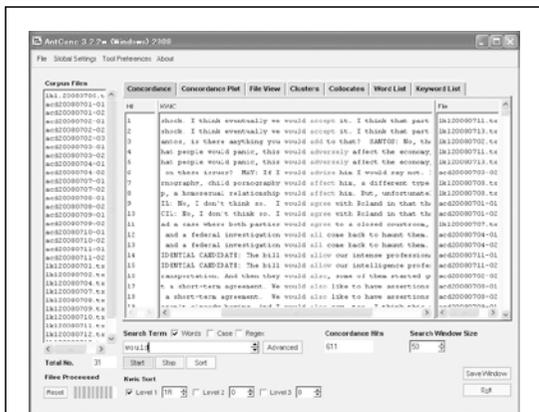
小室誠一
バベル翻訳大学院 (USA) 講師 (「英日翻訳ソフト基礎演習」担当) eTrans Technology School 講師

広義の翻訳支援ツール

広い意味で翻訳に役立つツールを考えると、文を分析するソフト、コーパスや対訳ファイルの元になるテキストを収集し加工するソフト、加工されたファイルを検索するソフトなどが挙げられます。

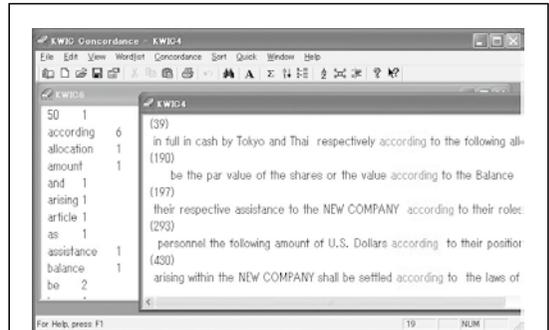
まずは、検索したキーワードを中心として行単位で検索結果が表示される KWIC コンコーダナーを紹介します。このツールを使うとキーワード前後の語句の様子が一目でわかります。英文を書く際に語法をチェックしたり、連語の情報を得たりすることができます。

● AntConc



http://www.antlab.sci.waseda.ac.jp/antconc_index.html
高機能なコンコーダナーです。キーワードの左右の語句で並び替えることもできます。(フリーウェア)

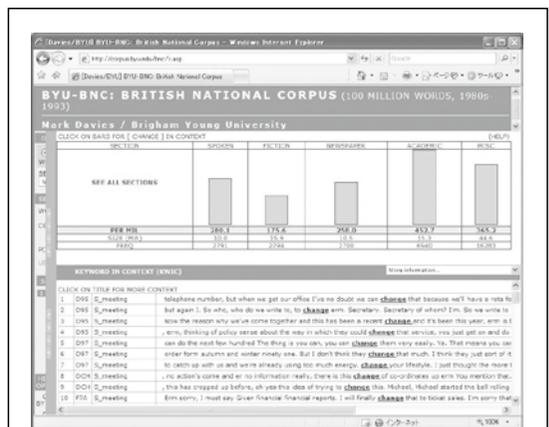
● KWIC Concordance for Windows



http://www.chs.nihon-u.ac.jp/eng_dpt/tukamoto/kwic.html

KWIC コンコーダンスの他、簡単に単語リストを作成できます。(フリーウェア)

● Davies-BYU



<http://corpus.byu.edu/>
オンラインのコンコーダナー。360万語のThe Corpus of Contemporary American English (COCA)を検索できるほか、The British National Corpus や TIME Magazine などそれぞれ100万語のコーパスも利用できます。

● Leeds collection of Internet corpora



http://corpus.leeds.ac.uk/internet.html
英国のリーズ大学 (University of Leeds) が作成した大規模コーパス。英語、中国語、フランス語、日本語などの様々な言語のコーパスをオンラインで検索できます。

● 英文校正サイト [NativeChecker]



http://native-checker.com/
Yahoo! ウェブ検索 API などを利用して、Web上に蓄積されている膨大な英文テキストを基盤とした、オンラインの英語のネイティブチェックシステムです。

コンコーダンサーや辞書ツールなどで利用するためのテキストは WEB で探すと良いでしょう。無料公開されているものもあります。

「日本法令英訳プロジェクト (<http://www.kli.is.nagoya-u.ac.jp/told/>)」「Project Gutenberg (<http://promo.net/pg/index.html>)」「CNN_com - Transcripts (<http://transcripts.cnn.com/TRANSCRIPTS/>)」など、いまさら紹介するまでもありませんが念のため。

● 日英対訳文対応付けデータ



http://www2.nict.go.jp/x/x161/members/mutiya/align/index.html
情報通信研究機構自然言語グループが、Project Gutenberg や青空文庫やプロジェクト杉田玄白などの作品について、日本語文と英語文とを対応を付けたものが多数掲載されています。

WEB ページを効率よくダウンロードするには専用のツールを使用します。

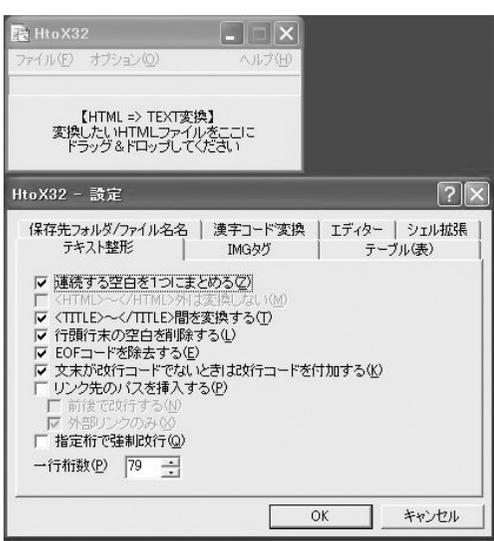
● GetHTMLW



http://www.vector.co.jp/soft/dl/win95/net/se077067.html

WEB ページを、WEB サーバのディレクトリ関係を保持したまま丸ごとダウンロードするツールです。(フリーウェア)

● HtoX32



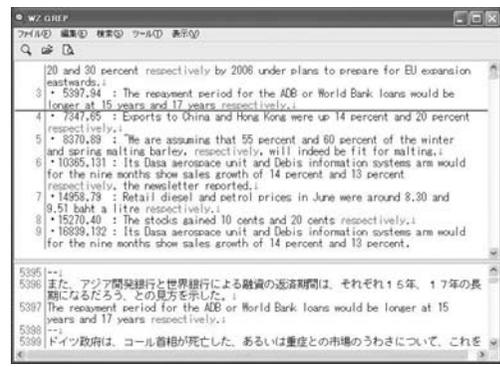
http://win32lab.com/fsw/htox.html

HTML をテキストに変換するツール。ドラッグ・アンド・ドロップで一度に複数のファイルを処理できます。(フリーウェア)

テキストを柔軟に加工するには高機能のテキストエディタが便利です。

WEB ページをダウンロードしたら HTML タグを削除してテキストファイルとしてコーパス化する際に便利なツールがあります。蓄積された

● WZ エディタ

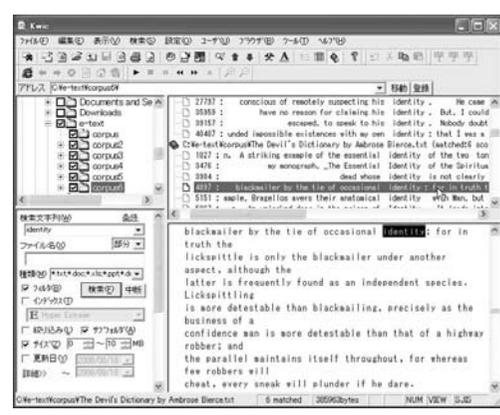


http://www.villagecenter.co.jp/soft/wz50/

JIS 規格外の UNICODE テキストにも対応し、JIS 第2水準にも含まれない旧字を含む原稿や、外国語と日本語が混在する翻訳原稿が無理なく作成できます。アウトライン機能、画面表示設定、入力支援、体裁認識、用語統一、スペルチェック、段組印刷など、原稿執筆と推敲を支援します。(製品版)

ファイルを管理するのに便利なツールがあります。

● KWIC Finder

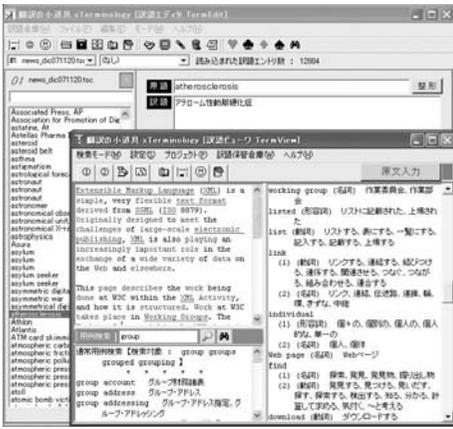


http://www31.ocn.ne.jp/~h_ishida/KWIC.html

複数のファイルの入ったフォルダを指定して GREP 検索できます。Microsoft Word、Excel、PowerPoint などにも対応しています(シェアウェア)。テキストファイルだけならフリーウェア。

辞書ソフトも数多くありますが、特に便利なものを紹介します。

●翻訳の小道具 xTerminology



<http://www.xterminology.info/index.html>
英語文書翻訳業務で用語管理と用語検索を効率的に行うためのソフトウェア。翻訳ソフトで使用するユーザー辞書の管理ツールとしても利用できます。コンピュータ関連の用語集が無料で公開されており、TermView（フリーウェア）で高速検索できます。TermEdit（シェアウェア）を使えば辞書登録や編集ができます。

● Personal Dictionary

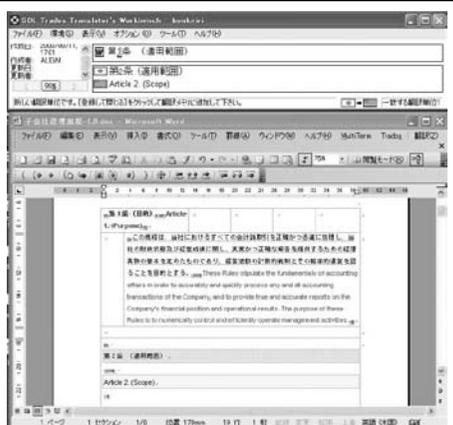


<http://homepage3.nifty.com/TaN/>
翻訳者の間で広く使われている辞書検索・語学学習・辞書作成ソフトウェア。Unicodeに対応した「PDIC/Unicode」が正式リリースされてさらに便利になりました。（試用制限無しのシェアウェア）

狭義の翻訳支援ツール

狭い意味で「翻訳支援ツール」と言えば、翻訳メモリ・ツールを指します。プロ翻訳者向けツールということで、翻訳業務に役立つ機能が搭載されています。また、翻訳業務管理機能も充実しています。繰り返しの多い文章や、頻繁にバージョンアップされる文書に利用すると業務効率も格段にアップします。また、通常このツールには原文のレイアウトを保持したまま翻訳する機能を備えているので、面倒な上書き翻訳も簡単にできます。

翻訳支援ツールも数多くの製品があって、どのツールを使ったらよいか迷ってしまいますが、多くの翻訳者に利用されているツールを使うというのも1つの選択です。例えばワープロではマイクロソフト Word が標準的に使用されており、翻訳者で Word を使ったことのない人はいないはずです。それと同じように翻訳メモリ・ツールといえば、SDL Trados が標準的に利用されています。これからは IR 文書などでの利用が多くなると予想されますので、IT 分野の翻訳者だけでなく、ビジネス分野の翻訳者も使い方をマスターしておくべきでしょう。



SDL Trados (Translator's Workbench)

翻訳メモリ・ツールと異なり、自動的に訳文を出力してくれる「翻訳ソフト」は、現在では「翻訳メモリ」機能が搭載され、「総合的な翻訳支援

ツール」となっています。翻訳作業で最も労力を要するのが文字入力です。訳文を自動出力してくれる翻訳ソフトは翻訳生産性の向上だけでなく、労力軽減の効果もあります。翻訳ソフトも数多くの製品が出回っていますが、バランスの良い「総合翻訳支援ツール」としてはPC-Transer 翻訳スタジオが挙げられます。また、同シリーズのPAT-Transer、MED-Transer、Legal Transerはそれぞれ特許、メディカル、リーガル分野に特化してチューニングされています。



PC-Transer 翻訳スタジオ

翻訳生産性を劇的に向上させる方法

翻訳メモリを搭載したPC-Transer 翻訳スタジオは、TM（翻訳メモリ）とMT（機械翻訳）をシームレスに連動して訳文を生成することができます。

PC-Transer 翻訳スタジオの訳文生成方法は以下ようになります。

- (1) 翻訳メモリで[完全一致文検索]を実行する→マッチすれば訳文生成
マッチしないと↓
- (2) 翻訳メモリで[文型一致文検索]を実行する→マッチすれば訳文生成
マッチしないと↓
- (3) Transer EJが機械翻訳する→訳文生成
これが多段階翻訳処理システムです。

この中でも、注目したいのが「文型一致文検索」です。

この機能を使う場合には、事前に翻訳メモリにちょっとした細工をする必要があります。

例えば－

原文：As soon as we receive <\$1>, we will reimburse you for <\$2>.

訳文：<\$1>を受取次第、<\$2>をお返します。

上記のように、決まったパターンの部分はそのままにして、変動する可能性のある部分にタグを付けます。原文と訳文の対応する部分に同じ番号を振ります。

パターンの部分が一致すると、変動部分が翻訳エンジンで翻訳され、対応する部分に埋め込まれて訳文が生成されます。ユーザー辞書をきめ細かく作り込んでおけば、そのまま使用できる訳文になります。

原文：As soon as we receive the package, we will reimburse you for the return postage.

訳文：商品を受取次第、送料をお返します。

英日方向で作成したPC-Transerの翻訳メモリはそのまま日英方向でも使用できます。翻訳メモリをとことん活用するのが多段階翻訳処理の原則です。一度入力したものをどれだけ利用できるかが翻訳生産性向上のポイントとなります。

翻訳支援ツールは数え切れないほどあります。今回はほんの一部を紹介するにとどまりましたが、どこをどのように効率化したいのかをはっきりさせれば、必ず目的に合ったツールが見つかるはずです。筆者が講師を務める「eTrans Technology オンライン講座」(<http://www.babel.co.jp/etts/>)では受講生の方々の必要に応じたツールの使い方の講座を個人型ワークショップという形式で提供しています。